

キッチン

取付説明書

INSTRUCTION MANUAL

本製品の機能が十分に発揮できるよう次の手順にしたがって正しく取り付けをしてください。

工事関係者の皆様へ



- 工事前に、取り付け場所、取り付け内容等についてお客様とよく打ち合わせをしてください。
- 製品に付属の取扱説明書をよく読んでいただき、正しくお使いいただくようお客様にお伝えください。
- この取付説明書は必ずお客様にお渡しください。

CONTENTS

安全上のご注意	1
製品の取扱上のご注意	3
取り付けをはじめる前に	4
取り付け手順	
1. 取り付け位置の墨だし	5
2. レンジフード・吊戸棚の取り付け	5
3. ベースキャビネットの取り付け	8
4. ワークトップ(カウンター)の取り付け	10
5. 排水器具・排水ホース(排水パイプ)の接続	11
6. 各設備機器の設置	11
7. 扉の交換・扉調整方法	12
8. 仕上げ・試運転・調整	12
お客様への説明・引き渡し	16

必ずお守りください

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けしてください。
- ここに示した注意事項は、守らないと人身事故や、家財の損害にむすびつくものをまとめて記載しています。安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- 取り付け完了後、試運転及び各部の点検を行い、異常の無い事をお確かめください。
- 本体に同梱されている取扱説明書は、お客様にお渡しする大切な書類です。紛失や、汚れが生じないように大切に保管し、取り付け完了後、お引き渡しの時にお客様にお渡しください。
- この取付説明書も取扱説明書とともに、お客様に保管していただくようお願いしてお渡してください。
- 正しく取り付けされなかった場合の製品の故障・事故については、当社は責任を負いませんのでご了承ください。
- 表示内容を見逃して誤った取り付けをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分、説明しています。

表示	意味
 警告	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度。
 注意	取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度。

■ 絵表示については次のような意味があります。

-  一般的な注意
  必ず行うこと
  一般的な禁止

- ステンレス製ワークトップやシンクを取り扱う時は、必ず保護手袋をしてください。

 **警告** 切断面にさわると、ケガをする恐れがあります。
- 吊戸棚の取り付けは、建築壁の構造を確かめて、取付説明書どおり正しく行ってください。

 **警告** 落下して、ケガをする恐れがあります。
- 電気工事・ガス工事・水道工事は、関連する法令・規則にしたがって、必ず「有資格者」が行ってください。


 **警告** 火災、感電、ガス漏れ、水漏れの原因になることがあります。
- ツールキャビネットは、必ず壁面へ固定してください。

 **注意** 転倒して、ケガをする恐れがあります。
- 棚板を設置する時は、棚受をすきまのないよう根本まで確実に差し込んでください。


 **注意** 棚板がはずれ収納物が落下してケガをする恐れがあります。
- 排水器具・排水ホースの取り付け及び給排水管の接合部分のシールは確実に行ってください。

 **注意** 水が漏れたり、湿気が上がり床などが腐る恐れがあります。
- 排水ホースは、U字型に曲げたり、折り曲げて取り付けないでください。


 **注意** 排水能力が低下してシンクから水があふれ、床を汚す恐れがあります。


8 取り付け完了後は、扉のがたつきや蝶番のゆるみのないことを必ず確認してください。 


 **注意** 使用中に扉が落下して、ケガをする恐れがあります。


9 組込まれる電気機器・水栓などについては、それぞれの取付説明書及び製品本体の表示事項を守り、正しく取り付けてください。 


 **注意** 思わぬ事故や故障の原因になることがあります。


10 取り付け・仕上げに使われる、接着剤や補強材は、ホルムアルデヒドの放散が少ない材料をお使いください。 


 **注意** 誤った使い方をすると、人体に影響が出る恐れがあります。


1 製品にのぼったり、物をのせないでください。 

 **注意** 思わぬ事故や故障、破損の原因になります。

2 製品に衝撃を与えないでください。 

 **注意** 思わぬ事故や故障、破損の原因になります。

3 製品に水をかけたり、屋外に放置しないでください。 

 **注意** 思わぬ事故や故障、破損の原因になります。

1 設計(図面)寸法と実際(建物)寸法が合っていますか。

2 発注した品物が間違いなく届いていますか。

3 電気製品は特に開梱包前に50Hz品か60Hz品かを確認してください。

4 吊戸棚の取り付け壁面(建物)の仕上がり平面度がきわめて悪い場合は、修正するか張り直してください。

5 床面(建物)の仕上がり平面度がきわめて悪い場合は、修正してください。

6 プランに該当する扉図のとおり、扉やサイドパネルなどの化粧パネルを作成ください。扉は水分を吸収しないように加工を施してください。十分でないと反りや、シミ、故障の原因となります

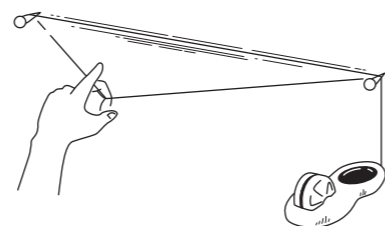
7 引き出しレール、スライドヒンジなどの取り付けに必要な加工を施し、所定の位置に取り付けてください。扉は出荷時にMDF扉が取り付けられていますので、取り付け方の参考として利用ください。

8 MDF扉をそのまま使用しますと、故障や損傷の原因になります。

1. 取り付け位置の墨だし

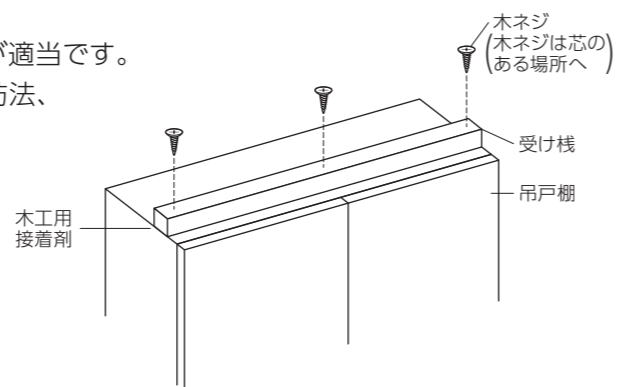
- 1 図面と取り付け場所の実寸を照合し、吊戸棚上端位置の墨付けをしてください。

●必ず水平器で確認してください。



- 2 吊戸棚等の上面と天井面にすき間をあけて回り縁・カザリ縁を取り付ける場合は、はじめに吊戸棚上面に受け棧を取り付けてください。

- 20mm×20mm程度の受け棧が適当です。
- レンジフードの場合、各地の消防法、条例にしたがってください。

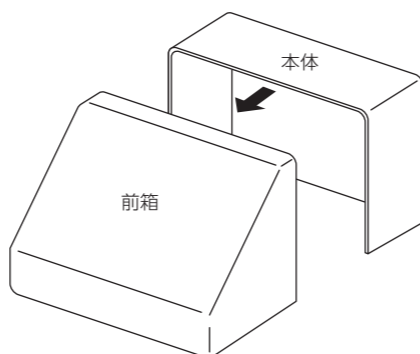


2. レンジフード・吊戸棚の取り付け

- 1 レンジフードは前箱のはずれるものとはりはずしてください。

レンジフード

- グリスフィルターや配線等が取り付けられたものもありますので、はずし方はレンジフードに付属の取付説明書・取扱説明書をよくお読みください。



2

吊戸棚

- 建物の取り付け下地の位置を確認し、吊戸棚背面の必要な位置にφ4.5~5の取り付け穴をあけてください。

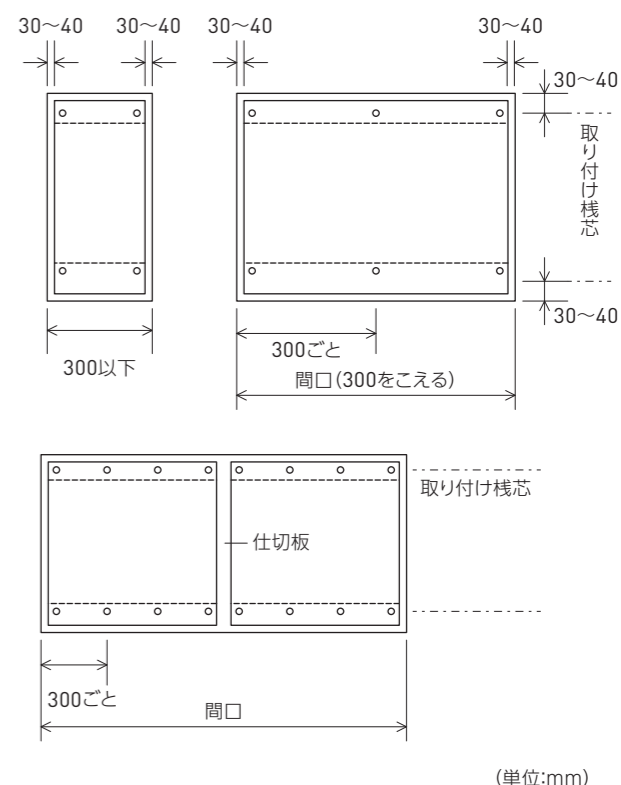
- 止め穴数は間口300mm以上は上下2箇所ずつ計4箇所、300mmをこえるものは300mmごとに上下1箇所ずつ追加してください。

- 仕切板がある場合は仕切板より取り付け穴をあけてください。

- 吊戸棚背面には右図位置に取り付け穴をあけてください。ただし、必ず建物壁の取り付け下地に合わせてください。

※公社、公団対応の場合、ネジ材質はステンレス(フェライト系で可)とする。

- 天井吊りの指定がある場合、その指示に従ってください。ただし、背面のネジ取り付けは必ず行ってください。



(単位:mm)

3

安全のために吊戸棚等の内部部品(棚板等)と扉をはずしてください。

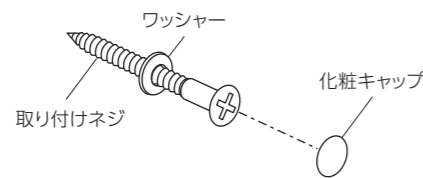
- 蝶番本体側の脱着用レバーを押し、手前に引くようにはずしてください。この時、扉はしっかり持ってってください。



4

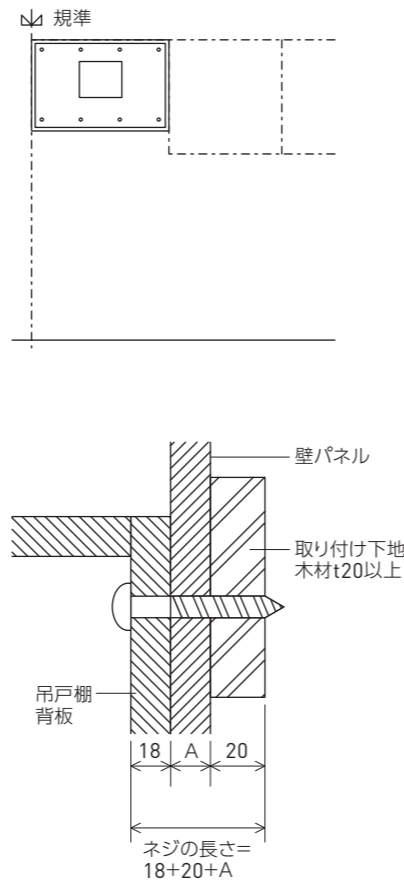
先に墨付けした位置の合わせ、左右どちらか基準を決め配列を確認しながら取り付けしていきます。

- 取り付けネジはφ4.5× \varnothing 55以上(金属)の皿頭化粧キャップ付きを使用してください。



ただし壁パネル(石膏ボード)が12mmより厚い場合は18+壁パネル厚(A)+20で計算し、長さを決めてください。

- 吊戸棚の背面と壁面が密着するように固定してください。



5

先に取りはずしたレンジフードの前箱、吊戸棚の扉と内部部品を取り付けてください。

- ゆるみなどがないように取り付け、締め付けしてください。

6

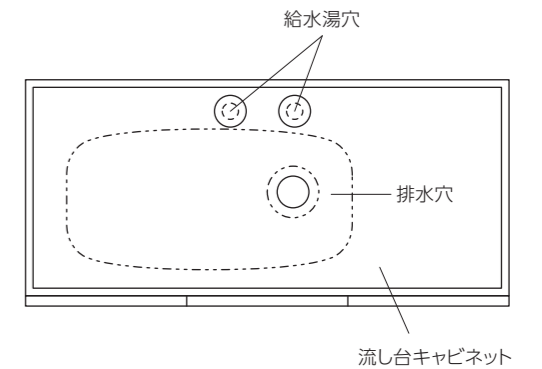
回り縁などを取り付ける場合は、先に付けた受け棧に固定してください。

3. ベースキャビネットの取り付け

1

給水・排水の位置を確認します。

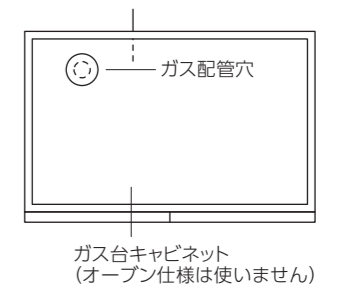
- 給水湯・排水の穴を図面で確認します。
- 現場穴あけの場合確認してあけてください。
- 集合住宅は排水管も硬管となりますので、特に位置まちがいのないように注意してください。



2

ガス配管の位置を確認します。

- ガス配管用の穴を図面で確認します。
- 現場穴あけの場合確認してあけてください。



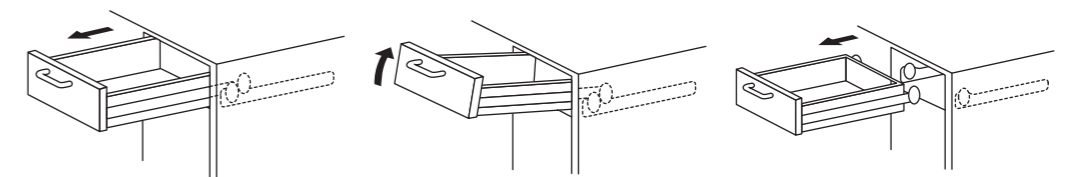
3

引き出し・棚板・スライド部品の取り付けしているものは取りはずしてください。

引き出し

- 引き出し用のレールが樹脂製の場合は、強く引くとストッパーがはずれます。
- 引き出し用のレールが金属製の場合は、

- 1 最大に引き出して
- 2 前側を上を持ち上げ
- 3 引き出す



スライド部品

- 全般的に金属製の引き出しレールと同じです。

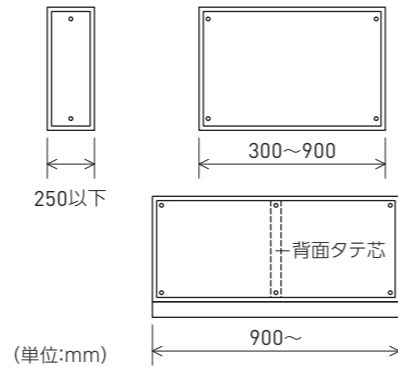
- 1 最大に引き出して
- 2 前側を上を持ち上げ
- 3 引き出す

- スライド部品の場合は本体がかなり重いものもありますので、しっかり支えて引き出してください。

4

建物の取り付け下地の位置を確認し、ベースキャビネットの背の面の必要な位置にφ4.5~5の取り付け穴をあけてください。

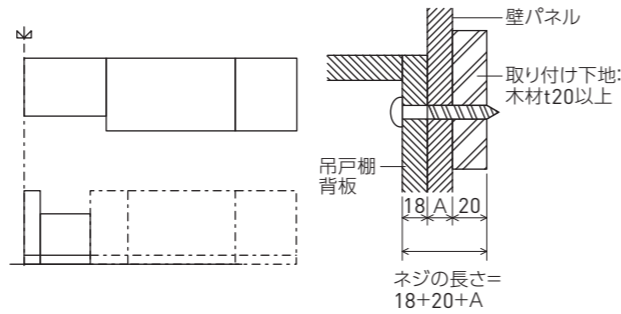
- 止め穴数は、間口250mm以下のキャビネットは上下(中心)2箇所、250をこえ900mm以下のキャビネットは上下2箇所ずつ(四隅)、900mmをこえるものは四隅と背面タテ芯のある位置に決めてください。ただし、必ず建物壁の取り付け下地に合わせてください。



5

吊戸棚を取り付けたときと同じ基準側から配列を確認しながら取り付けしていきます。

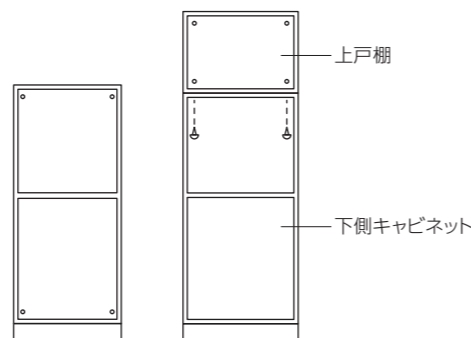
- 取り付けネジはφ4.5×055以上(金属)の皿頭キャップ付きを使用してください。ただし壁パネル(石膏ボード)が12mmより厚い場合は18+壁パネル厚(A)+20で計算し、長さを決めてください。



6

食器棚も手順は同じです。

- 食器棚は下側キャビネットを壁面に取り付けた後、上戸棚を同じく壁面に取り付けます。
- 壁面に取り付け後φ4×025(金属)皿頭キャップ付きのネジで上下を固定してください。

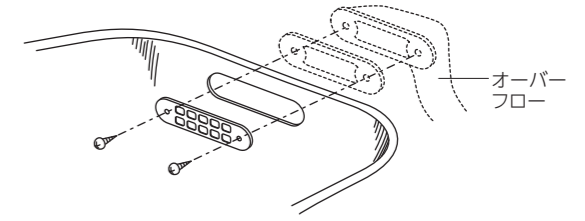


4.ワークトップ(カウンター)の取り付け

1

オーバーフロー付きのものはオーバーフローホースを先にシンクに取り付けてください。

- ネジの固定は左右平均に締め付けてください。



2

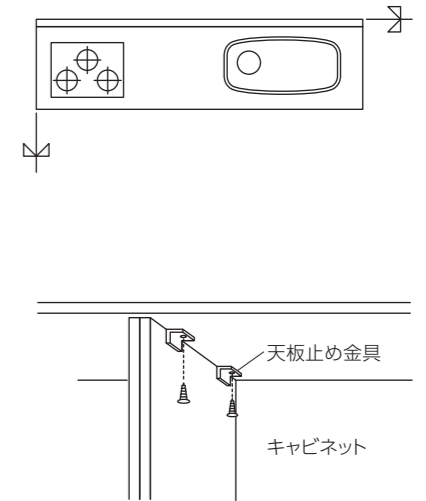
ベースキャビネットの上にワークトップをのせます。

3

位置が決まったら下面(ベースキャビネット内側)より下記のネジで固定してください。

- 基準位置を確認し、位置決めしてください。
- 各々のベースキャビネットの上端に天板止め金具が取り付けられていますので、付属の木ネジで下側よりワークトップ裏面への固定してください。
- ・人大的場合 φ3×010タッピングネジ
- ・ステンレスの場合 φ3×016タッピングネジ
- 全箇所固定してください。

ステンレスカウンターの場合不用意に手で持ちますと指紋が付く、取れなくなることがあります。汚さないようビニール等で養生してください。



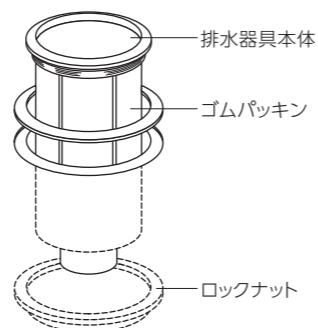
4

先に取りはずしたベースキャビネットの扉・スライド部品等を取り付け収納してください。

5.排水器具・排水ホース(排水パイプ)の接続

1 付属の排水器具をシンクに取り付けます。

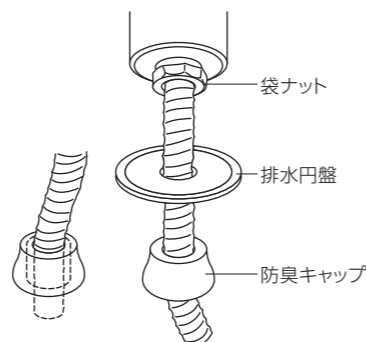
- ゴムパッキンと排水器具をシンク上側から落とし込み、下側からロックナットで締め付けます。
締め付けトルクは29N・m(3kg・m)としてください。



2 排水ホース(排水パイプ)を接続します。

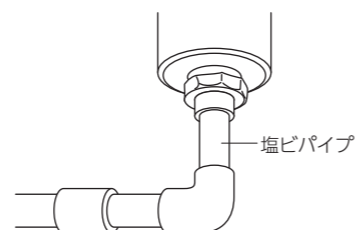
ホースの場合

- 袋ナットを本体下ネジに締め込みます。
- 流し台キャビネットに付属の排水円盤と排水器具に付属の防臭キャップをホースにとおします。
- 配水本管の立ち上がりの中に排水ホースの先を入れ、防臭キャップでふさぎ込みシールしてください。



硬管(パイプ)の場合

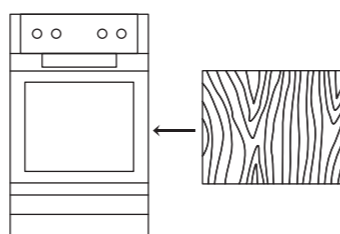
- 袋ナットを本体下ネジに締め込みます。
- 流し台キャビネットに付属の排水円盤と排水器具に付属の防臭キャップをホースにとおします。
- 配水本管の立ち上がりの中に排水ホースの先を入れ、防臭キャップでふさぎ込みシールしてください。



6.各設備機器の取り付け

1 ガス調理器具の配管接続工事は資格がないとできません。

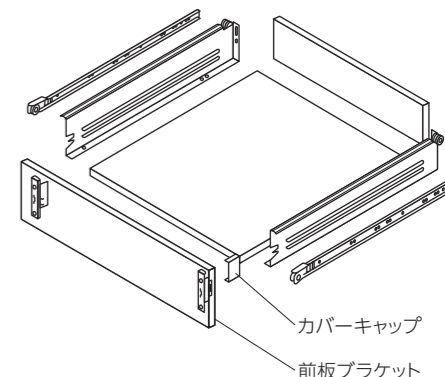
- 水栓から水道管への接続工事は配管の資格のある方に依頼してください。
- 機器の中には扉表面材をキャビネットの扉面材と同じにできるものがあります。付属の取付説明書を読んで行ってください。



7.扉の交換・扉調整方法

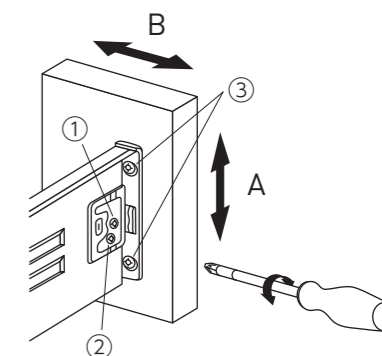
1 扉の交換方法

- 1.カバーキャップを奥行方向にスライドしはずします。
 - 2.前板ブラケット左右のネジ①をゆるめると引き出しと扉が脱着します。
※W600以上の扉に装着されている固定用L金具が引き出し裏側にありますので、そちらもはずしてください。
- ・外したMDF前板を、扉材の寸法やレール取り付け位置などの治具としてご使用ください。
 - ・扉材の取手は手順を逆に行ってください。
 - ・最後にバンポンを取り付けます。



扉の調整方法

- A. 高さ調整:±1.8mm
ネジ①をゆるめて編芯ネジ②で高さ調整します。調整後はネジ①を締めて固定します。
- B. 左右調整:±1.5mm
ネジ③をゆるめて前板の左右調整します。調整後はネジ③を締めて固定します。

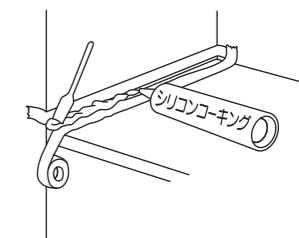


8.仕上げ・試運転・調整

1 壁が仕上がっていればワークトップと壁面のすき間をシリコンコーキングで仕上げます。

- マスキングテープを貼り、コーキングを塗布後ヘラでこいて即座にテープをはがしてください。

壁が仕上がっていない場合は後日実施してください。



2 各パッキン部(水栓・水栓器具等)の締め付け確認をしてください。

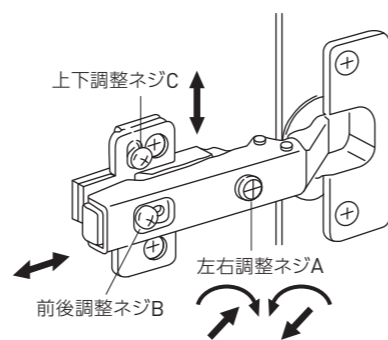
- 再度水回りのパッキン部・ガス配管等のゆるみがないかどうか確かめてください。

3 各機器を付属の取扱説明書にしたがい試運転してください。

- ガス漏れ・異音がないか等確認してください。

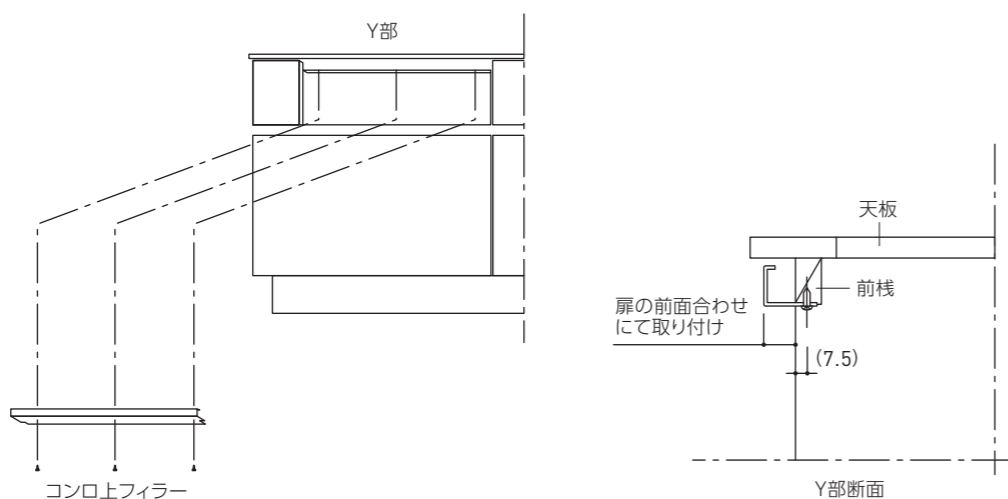
4 吊戸棚・ベースキャビネットの開き扉を調整してください。

- 扉段差の調整は蝶番(スライドヒンジ)の調整ネジで行いますが、調整中はきわめて少ないので取り付け時に十分気をつけて段差のないようにしてください。
- 左右調整/調整ネジAを回して調整します。
- 前後調整/調整ネジBをゆるめ、アームを前後に動かして調整します。
- 上下調整/調整ネジCをゆるめ、アームを上下に動かして調整します。
- 調整後、調整ネジB、Cは十分に締め付けてください。



5 コンロ上フィラーを取り付けます。※工場で行った場合もございます。

- 付属ネジにてコンロベース前枠下面への固定をします。
- 必ずコンロ設置前に取り付けしてください。ステンレス端部でケガをしないように注意してください。



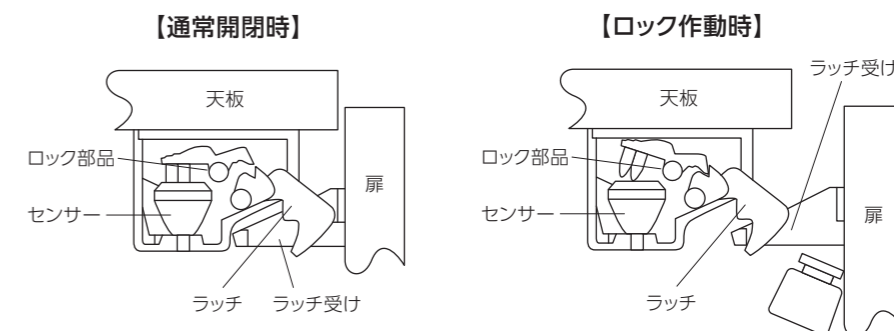
6 清掃をしてください。

- 木部を拭く場合、シンナー・ベンジン等の溶液は使用しないでください。
- 手あか、ゴミ、切り粉等は除去してください。
- ガスレンジ内部等のパッキン材(スチロール、ビニール、セロテープ)も除去してください。

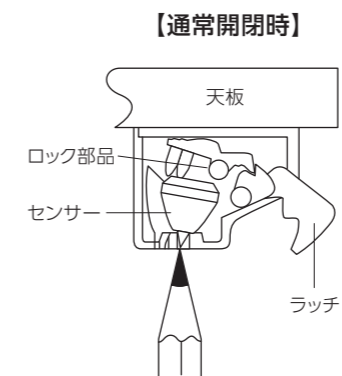
7 キャッチ機構(オプション)について

吊戸棚に設置しているキャッチ機構(オプション)について

地震などの揺れに反応して扉が開くのを防止するキャッチ機構です。地震の大きさ・揺れ方向・揺れの時間などによってキャッチ機構の作動条件は一定ではありませんので、地震発生時などに吊戸棚の扉が開いてしまうことを防止する補助的な機構です。(揺れ方によって反応しない場合がありますのでご注意ください)



ロック動作の確認



本体底部に細い棒を挿入し、ラッチが下がることを確認する。

【注意】

- ①キャッチ機構は、すべての地震(小さな震度の場合等)に対して、ロックが作動するものではありません。また、ビン等が倒れ扉にあたった程度の揺れに対しても作動しません。
- ②キャッチ機構は、建物の構造、収納物の収納状況(積載過多)、キャビネットの使用方法等により性能を十分に発揮しない場合があります。

【ロックの解除方法】

地震がおさまりましたら、通常の使用状態に戻ります。
※ユニット本体と扉の間にビン等が挟まってしまった場合や、ビン等が扉に寄りかかった状態では、扉が少し開いた状態でロックが維持されます。扉を一度閉めてロック解除し、扉に寄りかかった収納物等が倒れて落下しないように、ゆっくりと扉を開いてください。

7

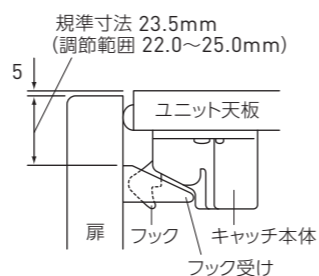
キャッチ機構 (オプション) について

キャッチ機構の調節

※本機構は、オプション設定品のため装備されていない場合があります。
 ※吊戸棚が確実に垂直・水平に設置されていることを確認してください。
 ※吊戸棚が傾いていると、キャッチ機構が作動し、扉が開かなくなる恐れがあります。
 以下の要領にて調節を行ってください。

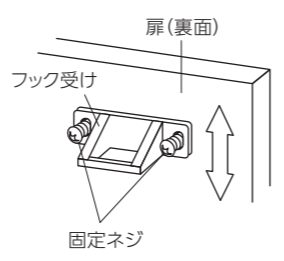
1. 取り付け位置

扉の調節後、キャッチ機構本体とフック受けが右図のように正常なおさまりになっているか確認します。標準寸法の位置にない場合は、[2]の手順で調整を行ってください。※フック受けが標準寸法より上の位置にあると、フック受けが本体に当たり、扉が閉まりにくい場合があります。また、フック受けが標準寸法より下の位置にあるとロック機構が十分に発揮されない場合があります。



2. 調整方法

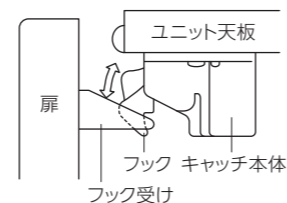
- ①フック受けを固定している固定ネジを緩め、長穴の範囲内で調節し、固定ネジを締めつけます。※調節完了後の固定ネジの締め付けは、固定ネジを空転させないようにご注意ください。
- ②フック受けを調節してもスムーズに開閉できない場合は扉の上下調節を行い、調節してください。



3. 作動確認

調節後、以下の手順で適切に調節されているか確認します。

※製品出荷時には、取り付け中のロック防止のための、テープが貼ってあります。キャビネット設置後にテープを剥がし、以下の確認を行ってください。扉を開くことにより、フックがフック受けに当たってスムーズに上がり、扉を閉めることにより、フックが完全に下がることを確認してください。



4. ロック解除方法

揺れや傾きを感知すると、フックが下りた状態でロック機能が作動します。揺れがおさまリ、キャビネットの傾きが3°以下になるとロックは自動的に解除されます。

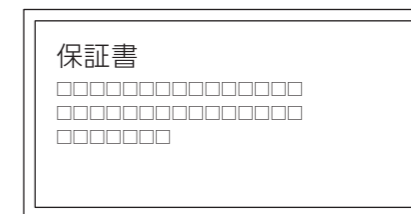
1

必ずお客様に立ち会っていただき、取扱説明書に沿ってすべて(設備機器を含む)の扱い方の説明をしてください。

- 取扱説明書の巻頭には特に安全に関わる重要事項を記載してありますので間違いなく説明をしてください。

2

保証書に必要事項を記載の上、お客様に手渡してください。



3

お客様がすぐにお使いにならない(しばらく入居されない)等のときは

- すべての電気機器のスイッチを切り、コンセントプラグを抜いてください。
 後でプラグを抜くことが困難な場合はそのままにしてスイッチを切り、建物のブレーカーを「切」にしてください。
- 吸水湯の元栓(不凍栓)を閉じ、水栓は水抜きをしてください。
- ガス器具も元栓を閉じてください。

MEMO

A large grid of graph paper for writing a memo. The grid is composed of small squares and is divided into four quadrants by a vertical line and a horizontal line. The grid is empty and ready for use.

MEMO

A large grid of graph paper for writing a memo. The grid is composed of small squares and is divided into four quadrants by a vertical line and a horizontal line. The grid is empty and ready for use.